



「男子はサッカーや野球、ゲームが好き」などのイメージを持つていませんか。こうした「女らしさ」「男らしさ」についてのイメージを「ジェンダー」（社会の中で作られた性別）といっています。

あなたのランドセルは何色？

ジェンダーは、私たちの生活や人生に多くの影響を与えてきました。一方で、最近では、ジェンダーに縛られず一人ひとりの

好みや選択を大切にする考え方が広がっています。例えば、かつては、「女子は赤、男子は黒」のランドセルが一般的でした。しかし、今のランドセル売り場では、青、紫、緑など色とりどりの商品が並び、「女子だから」「男子だから」ではなく、「自分はこの色が好きだから」という理由で選べるようになってきました。服装も変化しています。以前は、ピンクの服、フリルやレースのある服、スカートやワンピースは女子の服売り場にありました。一方、男子の服売り場では、青やグレーの服、飾りのない

私らしく、あなたらしく。

自分らしさを大切にす

服がほとんどでした。今は、そもそも女子・男子で商品や売り場を分けていない店が増え、ピンクの服やかわいらしいデザインを好む男子もいます。制服を選ぶことができる学校も全国で増え、スラックスで通学する女子もいます。性別に関係なく自分らしい服装を選べるようになってきました。



るのは、進路や仕事を決める時も同じです。女性で科学者を目指して理系に進む人、消防士として活躍する人、男性で保育士、看護師を目指す人、美容関係の仕事に就く人もたくさんいます。性別に関係なく、自分のやりたいことを考えてみましょう。また、周りの人に対しても、「女のくせに〇〇なんておかしい」「男だから〇〇するべき」と決めつけず、その人らしさを尊重することが大切です。「私らしさ」「あなたらしさ」を認め合うことは、きっと、だれもがいきいきとかがやく未来につながります。

デンマーク発 ジェンダー・ステレオタイプから自由になる子育て 多様性と平等を育む10の提案

セシリエ・ノアゴー著、さわひろあや訳（図書出版へウレーカ）
 おとな自身がジェンダーにとらわれずに、子どもとどのように向き合っていけばよいかを、10の提案にまとめた、ママ・パパのジェンダーの入門書です。

おとなむ 大人向け

